赤ちゃんの四季（18）　平成17年夏

育児に効率化はない

ＪＲ西日本の列車事故による大惨事では、安全性を軽視した過度の経済効率化・利便性の追求が、このような悲劇を生み出したようです。その責任は、ＪＲだけの問題ではなく、利便性を追求する経済至上主義のわが国の社会構造にあるようです。

子育て活動も、「安全・安心」への投資と同様に、すぐに富を生み出すものではないことが、効率化を追求する経済至上主義と相容れずに、子どもたちに多くに悲劇を生み出しています。

今日も、ごく普通の、高等教育をうけた母親に育てられていた乳児が、母親に抱かれながら，虐待によるとしか考えようのない頭蓋内出血でこども病院に緊急入院してきました。揺さぶられ子症候群では虐待行為が繰り返し行われています。親は大事に及ぶまでに何度もサインを出していましたが、ゆとりのない現代社会では誰も気づいてあげることができなかったのです。人工呼吸器につながれた我が子の手を夫婦で握り締め、我が子の目をじっと見つめている姿は普通の親の姿そのものです。

大人への利便性は，満足度の多少により経済的価値として富を生み出します。子どもに大切な育児環境は、利便性の対極にある「安全・安心」を子どもたちに保障することであり，すぐには富を生み出しません。人間の手の温もりと愛でしかできないのが子育てです。効率性を度外視した育児環境への惜しみない投資こそが、明日の人間社会を豊かにするものです。

それには、大人中心の利便性の社会ではなく、親がゆとりをもって子育てできる「安心・安全」優先の社会づくりです。ＪＲ西日本の今後の経営方針が、日本の将来を指し示すことになるでしょう。